

# KIKUYO TOWN

第7期菊陽町総合計画 | 2025▶2034 |

概要版

ともに輝き 成長しつづけるまち 菊陽



## 町長あいさつ

菊陽町は、これまでの先人たちのたゆまぬ努力によって、農業・商業・工業、住環境や自然環境のバランスが取れた豊かな町として発展してきました。

そして、私自身、これからもそんな町でありつづけてほしいと願っていますし、そうしなければならない責任があると考えています。

一方で、世界的半導体製造企業であるTSMCが、本町への進出を表明して以降、町を取り巻く環境は、大きく変化しています。

この企業進出に伴う諸課題に、迅速かつ的確に対応しながら、これを好機と捉え、町の更なる発展や、企業の進出効果の最大化に向けた取り組みも、着実に進めていかなければなりません。

そのため、計画期間の途中であった第6期総合計画を見直すのではなく、今回、新たに第7期総合計画を策定することを決断しました。

この総合計画には、新しいまちづくりや企業進出への対応などのほか、私のマニフェストに掲げている様々な施策をはじめ、何よりも子育て世帯から高齢者まで、この菊陽町に住んで良かったと思っただけのよう、町民の皆様の豊かな生活に向けた多くの取り組みを盛り込んでいます。

こうした将来の町全体のまちづくりの方針である総合計画を、計画で終わらせず、確実に進めていくためには、我々行政だけでなく、地域や関係団体、企業、それから町民の皆様の力が必要不可欠です。

ぜひ、この総合計画に目を通していただき、まちづくりの一員として、「10年後の菊陽町」のイラストのような町を、そして、「ともに 輝き 成長しつづけるまち 菊陽」を、これから一緒につくっていきましょう。



菊陽町長

吉本孝寿

2025(令和7)年3月

10年後の菊陽町～イメージイラスト～



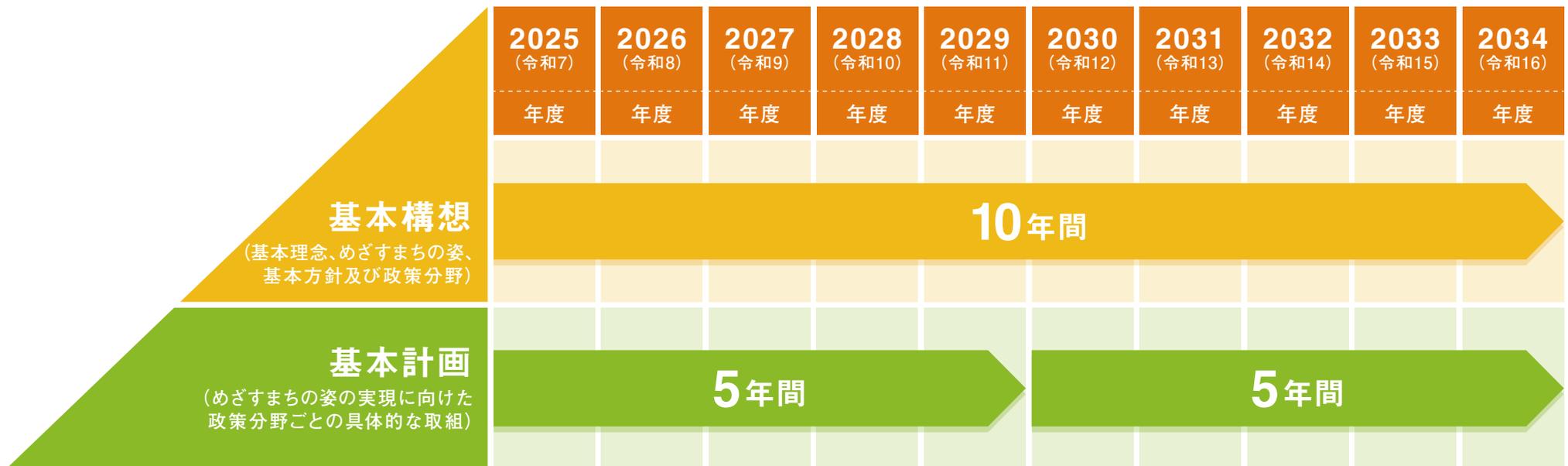
イラスト：前田 地生(菊陽町PR大使)

## 総合計画の概要

総合計画とは、まちの将来像やその実現に向けた指針、施策を示すもので、「基本構想」と「基本計画」の2つで構成します。基本構想は、まちの将来像と、その実現に向けた指針を示す構想で、本町の様々な計画の最上位に位置づけられます。基本計画は、基本構想の実現に向けて必要となる施策について、その方向性を体系的に示す計画です。

第7期菊陽町総合計画の計画期間は、次のとおりです。

- 基本構想：2025(令和7)年度から2034(令和16)年度までの10年間
- 基本計画：前期5年間／後期5年間



本計画は、まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第10条における地方版総合戦略と基本的な考え方や方向性が合致することから、国及び県の総合戦略を勘案し、「第2期菊陽町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を継承することで、本町における地方版総合戦略としても位置付けます。

KIKUYO TOWN

# 基本構想



## 基本理念

菊陽町のまちづくりにおける基本理念は、次の3つです。

この基本理念は、これまでの「菊陽」を作り上げたみなさまの想いを継承し、これからの新たなまちづくりを進める上で、大切にしたい考え方です。

そして現在は、一人ひとりの幸福度を重視した、ウェルビーイング(※)の考え方が、行政の取組にも求められています。

あらゆる人が自分らしく幸せに生きられるように、「快適さ」、「豊かさ」、「誇り」を実感できるまちを目指すこと、この考えを忘れず、まちづくりに取り組みます。

### 基本理念 1

## すべての人に 「快適なまち」

誰にとっても、生活の利便性が高く、安全・安心が確保され、誰もが、ずっとここで暮らしたい、ここで働きたい、ここで学びたいと思える「快適なまち」を目指します。

### 基本理念 2

## くらしとみどりが調和する 「豊かなまち」

住環境の整備や農業・商業・工業の発展に取り組みながら、緑地や地下水などの自然環境や資源を守り、町全体のバランスが取れた「豊かなまち」を目指します。

### 基本理念 3

## 将来に渡り 「誇れるまち」

先人たちが築いてきたこれまでのまちづくりを未来につないでいくとともに、新たな交流も生みだし、活気とにぎわいにあふれた「誇れるまち」を目指します。

※ウェルビーイング(Well-Being)とは、よい(Well)状態(Being)という意味です。

心も体も社会的な面でも満たされている状態や、自分らしく生きられている充実した状態を指します。単に健康であるだけでなく、幸せや生きがいを感じ、良好な人間関係や環境にも恵まれているということ。

## 基本構想の全体像

基本構想は、「めざすまちの姿」、「まちづくりの基本方針」、「政策分野」で構成します。

まちづくりの「基本理念」を踏まえ、「めざすまちの姿」を掲げます。

そして、その実現のために、すべての施策にまたがる4つの「まちづくりの基本方針」に沿って、8つの「政策分野」を設定し、まちづくりに取り組みます。

めざすまちの姿	まちづくりの基本方針		政策分野	
ともに輝き成長しつづけるまち 菊陽	未来ある まちづくり	やすらぎの まちづくり	生活	あらゆる人が自分らしく暮らせるまちへ
			未来	いまを守り未来につなぐまちへ
			安全	それぞれの暮らしを守り抜くまちへ
			教育	多様な学びがあふれるまちへ
	魅力ある まちづくり	つながり育む まちづくり	地域	誰もが誇り活気に満ちたまちへ
			スポーツ と文化	喜びや楽しみが新たに見つかるまちへ
			潜在能力	さまざまな可能性が花ひらくまちへ
			町民 サービス	さらに町民志向のまちへ





KIKUYO TOWN

# 基本計画

菊陽町では、世界的半導体企業の進出により、様々な影響がもたらされており、それらへの対応が求められています。

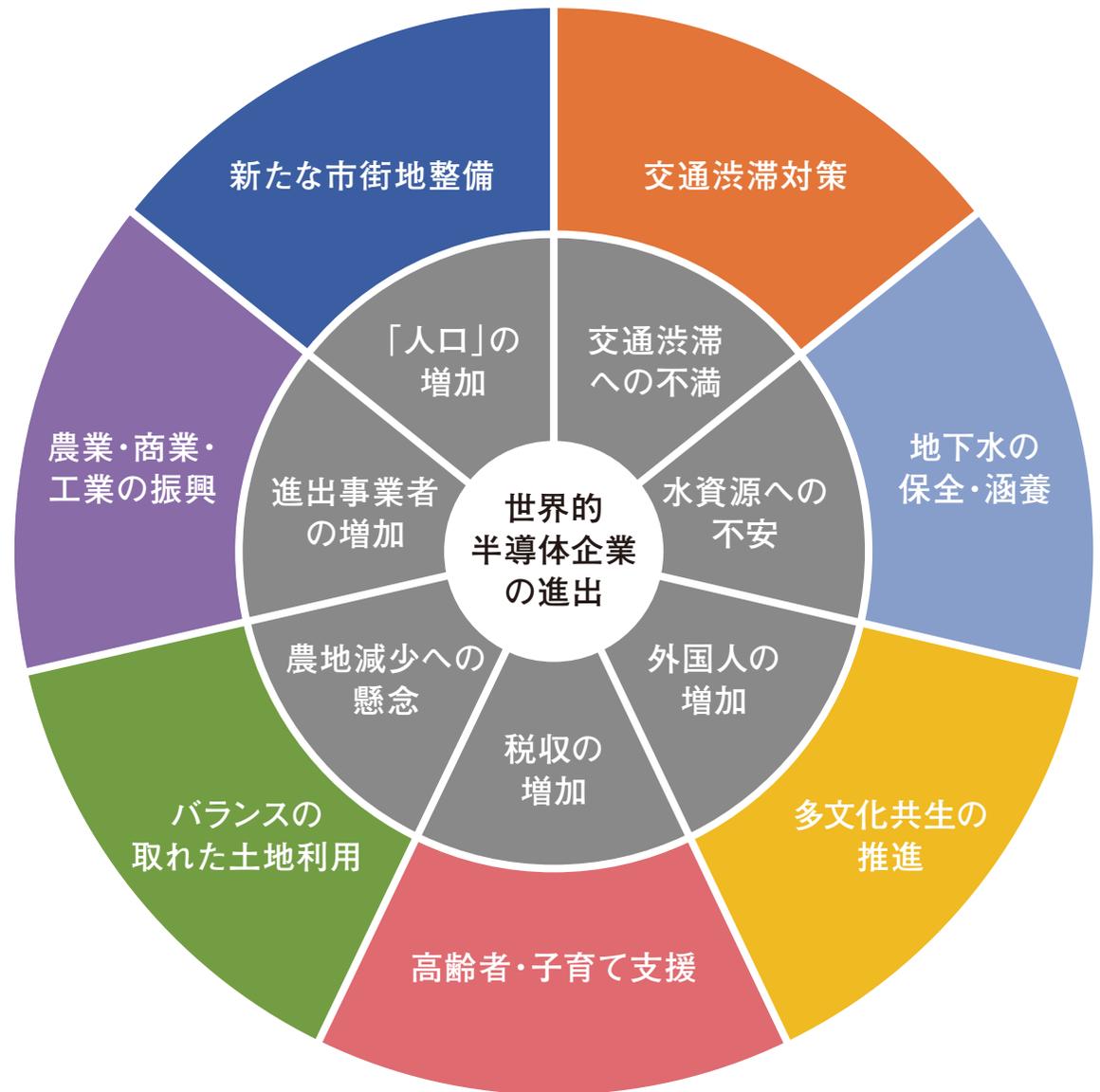
ここでは、前期基本計画に掲げる基本施策や、それにひも付く具体的な取組の中から、企業進出を契機とした様々な影響に対応するための施策を、政策分野に関わらず、施策特集として紹介します。

企業進出に伴う主な影響と施策は、次のとおりです。

主な影響	主な施策
従来から課題である交通渋滞に対する町民の不満	交通渋滞対策
半導体製造に使用する水資源に対する町民の不安	地下水の保全・涵養
町に転入する外国人の増加	多文化共生の推進
町の税収増加	高齢者・子育て支援
産業集積に伴う農地減少への懸念	バランスの取れた土地利用
町に進出する事業者の増加	農業・商業・工業の振興
定住・交流・関係人口の増加	新たな市街地整備

基本構想に掲げる「めざすまちの姿」の実現に向け、これらの施策を迅速かつ着実に推進していきます。

また、企業進出を契機とした、これらの施策以外の、基本施策についても、積極的に取組を進め、町民一人ひとりの幸福度の向上を目指します。



## 交通渋滞対策



道路ネットワークの整備計画

## 公共交通ネットワークの構築

町では、2025(令和7)年3月に策定した菊陽町地域公共交通計画に基づき、自家用車から公共交通への転換を促進するため、JRを軸とした公共交通ネットワークの構築に取り組みます。

具体的には、JR各駅と巡回バスとの接続強化や、JR豊肥本線のダイヤ改正などを踏まえたセミコン通勤バスの弾力的な運行、シェアサイクルサービスの拡充など、鉄道周辺における二次交通の充実を図ります。

また、今後は、半導体関連企業の更なる集積に伴い、JR豊肥本線からセミコンテクノパーク周辺までの移動需要が増大すると見込まれるため、県や周辺自治体とも連携しながら、大量輸送能力・速達性を備えたBRT(バス高速輸送システム)などの新たな公共交通についても、広域的な導入に向けて検討を進めます。

これらの公共交通への転換に向けた取組と、道路ネットワーク整備の取組を両輪として一体的に推進することで、交通渋滞の緩和に向けた効果的な対策としていきます。

## 道路ネットワークの整備

町では、従来から課題であった交通渋滞に対応するため、世界的半導体企業の進出により新たに創設された国の交付金を活用し、国や県とも連携しながら、過去に例を見ない速さで道路ネットワークの整備を進めています。

セミコンテクノパーク周辺の主な道路計画としては、①菊陽空港線の延伸、②大津植木線の多車線化、③合志ICアクセス道路の整備、④中九州横断道路の整備があり、概ね5年以内の完成(④を除く。)を目指して取り組んでいます。

また、道路整備というハード面の対策と併せて、企業にも働きかけながら、時差出勤やフレックスタイム制の導入による通勤時間の分散など、行政以外におけるソフト面の対策も進めています。

こうした対策を国や県、企業などと引き続き強力に推進することで、車の交通を円滑化し、特に、朝夕の通勤・通学時間帯における交通渋滞緩和の実現を目指します。



巡回バス「キャロッピー号」



シェアサイクルサービス



セミコン通勤バス





上津久礼区の水田

世界的半導体企業の進出により、町や県、そして国全体の経済発展が期待されている一方、地下水採取量の増加が見込まれており、熊本都市圏100万人の生活と産業を支えている地下水を守る必要があります。

町では、隣接自治体や関係団体と連携し、白川中流域で、作付けの合間に水を張る水田湛水や、水稻の作付け拡大の推進などの地下水涵養に取り組むとともに、今後は営農によらない涵養の実現にも取り組んでいきます。

また、生活用水や産業用水の節水に向けた啓発や、雨水浸透施設の設置に対する支援など、地下水採取量の削減に取り組むとともに、県においては、菊池市の竜門ダムを水源とする有明工業用水の未利用水の活用に向けた検討も進められています。

今後、県や関係機関と一体となって、これらの取組を推進することで、経済発展と地下水保全の両立を実現し、熊本の貴重な資源である地下水を次世代に継承していきます。

## 多文化共生の推進

町では、世界的半導体企業の進出により、外国人の転入者が増加しており、中でも、台湾からの転入者が急増しています。

こうした外国人転入者が孤立することなく、日本人と外国人がお互いの違いや多様性を認め合い、ともに地域社会の一員として安心して生活できるよう取り組む必要があります。

具体的には、外国人の日常生活をサポートする外国人相談窓口の運営や、多言語に対応した様々な広報媒体による情報発信などに取り組めます。

また、外国人と日本人双方に向けた異文化理解などに関する講座やセミナー、交流イベントの開催など、多文化共生の意識啓発にも取り組めます。

今後は、(仮称)国際交流協会の設立を進め、多文化共生に関する取組や情報を集約するとともに、相談体制の更なる強化や必要な支援の提供に取り組めます。



外国人を対象とした交流イベント

## 高齢者・子育て支援



給食を食べる園児



介護予防教室に参加した高齢者

町では、世界的半導体企業の進出や工場の増設などにより、税収の増加が見込まれており、こうした企業進出の効果を町民に還元するような取組を講じていきます。

具体的には、高齢者支援として、さんふれあ入浴券の配布などによる生きがいづくりや、町独自の介護人材の確保策の検討などによる安定した介護保険サービスの提供に取り組むとともに、企業とも連携した健康長寿プロジェクトや紙おむつ購入に対する支援など、進展する高齢社会を見据えた取組も進めます。

子育て支援として、2025(令和7)年4月から町立小中学校の給食費の完全無償化や保育所等の副食費の無償化など、子育て世帯の負担軽減に取り組みます。

また、高齢者や子育て世帯を中心に、様々な世代の健康づくりの拠点となる健康保健センターの整備も進めていきます。

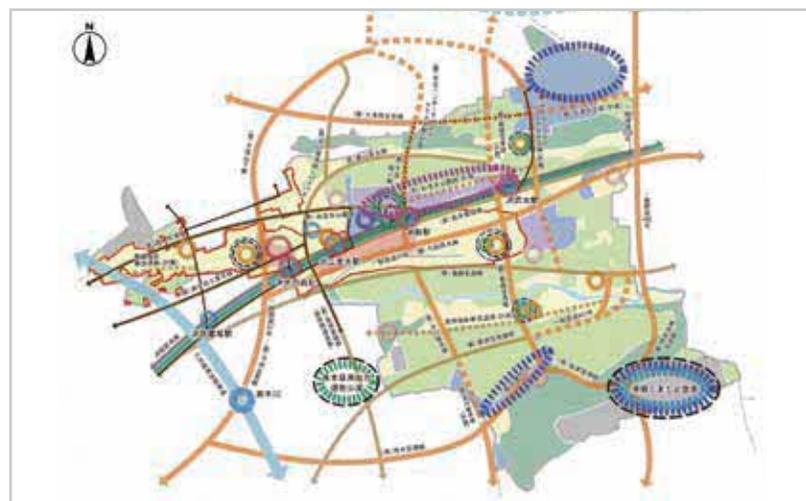
## バランスの取れた土地利用

町の土地利用の特徴は、これまで、農地を適切に守りながら、土地区画整理事業による丁寧な市街地整備と工業団地の造成による企業誘致を進めてきたことで、農業、商業、工業、住環境、そして自然環境のバランスが非常に良いことです。

一方、世界的半導体企業の進出を契機に、工業用地や商業用地などを目的とした土地取引が活発化しており、農地の減少が懸念されています。

今後、半導体関連企業の更なる集積が見込まれており、町としても工業用地の確保を進めていく必要があると考えていますが、町の発展を支えてきた農業についても、その守るべき農地を明確にし、適切に保全していくことが重要であるため、2025(令和7)年3月に菊陽町都市計画マスタープランを見直しました。

この計画に基づき、地域経済の発展を目指しつつ、農業、工業、商業、住環境、自然環境のバランスを保つ取組を両立させることで、先人たちが築いてきた町の豊かさを後世に引き継いでいきます。



菊陽町都市計画マスタープラン 将来都市構想

## 農業・商業・工業の振興



国の産地指定を受けている「菊陽にんじん」



光の森の商業施設



原水工業団地に立地した工場

世界的半導体企業の進出を契機に、今後、国内外から町に進出する事業者が増加していくことが見込まれます。

町としては、半導体関連企業の集積を進めるに当たり、工業分野だけではなく、その周辺において商業分野の事業者の進出も念頭に、各分野における新規事業者の課題把握や事業の立ち上げ・展開に対する支援に取り組みます。

また、新規事業者の進出効果が既存事業者にも及び、町民の利便性が更に向上するように、新規事業者と既存事業者の連携促進に向けた取組も進めます。

さらに、農業においては、農地の保全や担い手の育成・確保に取り組みながら、分野の異なる事業者との連携協力による6次産業化に向けた取組などを推進することで、その振興を図ります。

こうした産業分野の垣根を超えた取組を進め、世界的半導体企業の進出効果をより拡大することで、その効果を町全体、そして広域へと波及させていきます。

## 新たな市街地整備

町では、世界的半導体企業の進出により、定住人口や交流人口、関係人口の増加が見込まれており、それらに対応した取組を進める必要があります。

具体的には、菊陽杉並木公園を拡張し、世界大会や国内大会の誘致が可能な西日本最大級のアーバンスポーツ施設「くまモンアーバンスポーツパーク」の整備を進め、2026(令和8年)4月の開業を目指します。

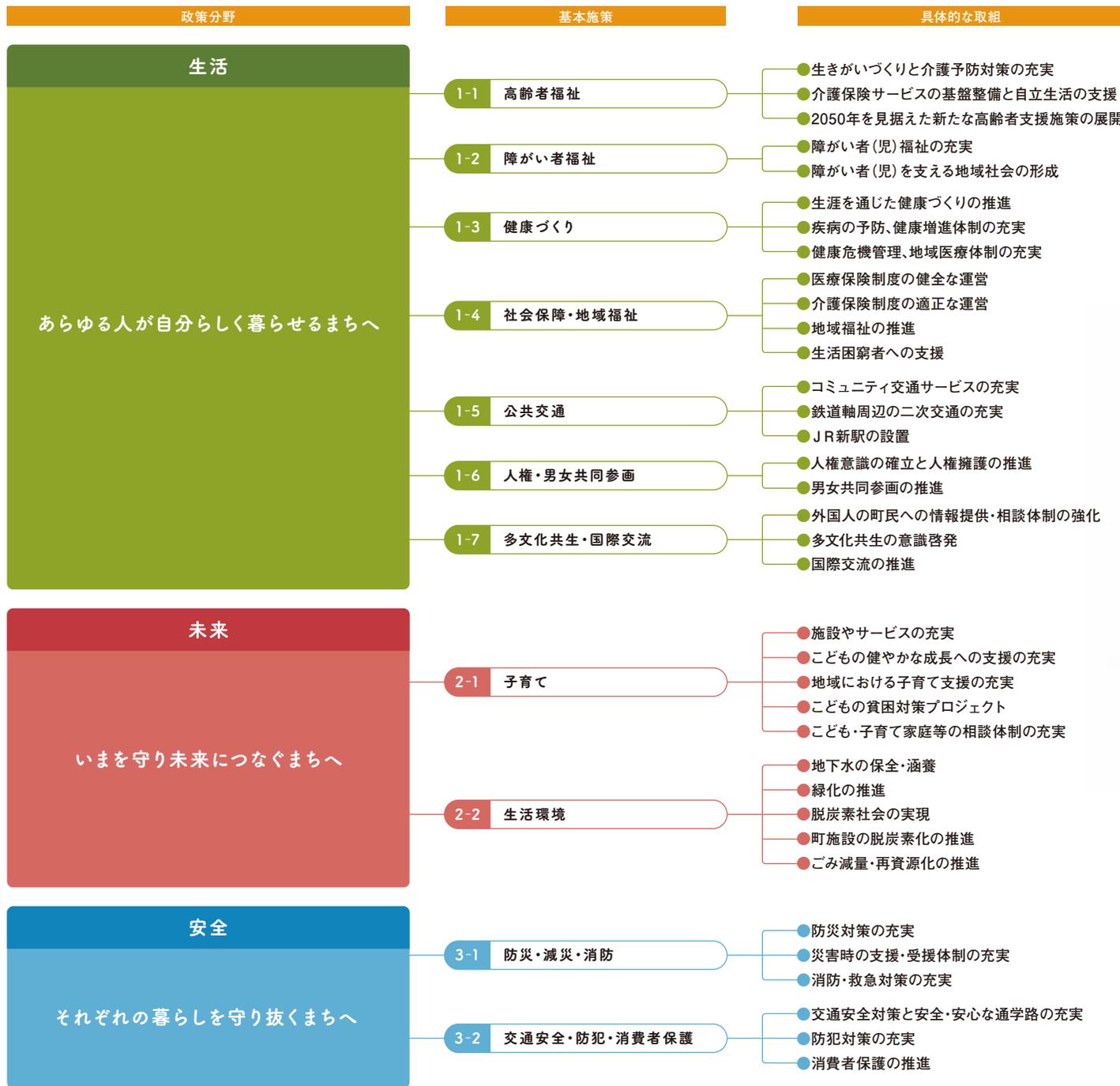
また、JR三里木駅と原水駅の間に設置予定の新駅は、地域公共交通の拠点としてだけでなく、今後のまちづくりの拠点としても位置付け、原水駅周辺の土地区画整理事業と一体となった整備を進めます。

さらに、その原水駅周辺の約70haの土地区画整理事業では、区域内に、「賑わいエリア」、「知の集積エリア」、「職住近接エリア」の3つのエリアを設定し、それぞれの特性に応じたまちづくりを行います。

こうした「人口」の増加に対応した新たな市街地整備を着実に推進することで、町の更なる発展を図っていきます。



原水駅周辺の土地区画整理事業とくまモンアーバンスポーツパークのイメージ図







## 第7期菊陽町総合計画 概要版

〒869-1192 熊本県菊池郡菊陽町大字久保田2800

菊陽町総務部総合政策課

電話：096-232-2111（代表）

<https://www.town.kikuyo.lg.jp/>

